

花鳥風月・俳句

水仙が一塊で冬凌ぐ

高橋 恵子

はかどらぬ老の仕事や日短

部屋掃除終えて冬日を招き入れ

三浦 シズ子

抱き寄りて湯舟に遊ぶレモンかな

彫り深き小さな句碑は萩の下

塗 塀 良子

春雨や濡れて帰えろか散歩道

落合 敦

ゆっくりとだがしっかりと咲く桜

菜の花や風のささやき河川敷

小野 弘幸

遠き日の色衿かけてお正月

今城 宏子

寒ゆるみ姿見せずに鳴くメジロ

高橋 学

水温む朝の洗顔楽になり

春の宮ホツトレモンの味覚せり

徳永 誠一

着ぶくれて誰にも遠慮のなき齡

冬帽に髪押し込みて散歩に行く

鈴木 伊都美

種まこか畑へ行ってまだ寒い

加藤 イサ子

古布の雛はんなり色の面影雅

雛ゆづる介護施設にあられ連れ

小林 泰子

山茶花の散り敷く庭の明るさよ

今日こそと部屋のかたづけ年の暮れ

秋深し山茶花の花誇らしく

明星 勲

薄暗き廊下に一輪実南天

神野 幸男

寄合のドイツ大会春日和

越智 恵美子

神々し石鎚の嶺白銀や

立春や万両の実の紅い玉

石井 トシ子

連れて行く約束孫と梅の寺

レシピみな嫁に教へる花菜漬

春浅き峽に来たりし野鳩かな

三浦 シズ子